

気候変動に対応した水稻経営の改善支援

～水稻の品質と収量の向上のためのイネカメムシ防除～

1 課題の背景とねらい

千葉市内の大規模水稻農家 5 戸のうち 2 戸では、平成 30 年頃からイネカメムシの吸汁害と推察される不稔と斑点米の発生で主食用米の収量が低下しており、他の 3 戸ではイネカメムシ被害の実感がなかったものの収量が伸び悩んでいました。

そこで、展示ほを設置してイネカメムシに効果が期待される箱施用剤の効果と二番穂でのイネカメムシの発生状況を明らかにし、個別指導と講習会での情報提供をして、イネカメムシ防除の意識付けと防除の実践により水稻の品質と収量を向上させることをねらいとした普及活動を行いました。

2 普及活動の経過・結果

(1) 展示ほの設置による被害の情報提供と意識付け

イネカメムシの吸汁害と箱施用剤の防除効果を確認するために、特に被害が懸念される早生品種を栽培している農家の協力を得て、効果が期待される箱施用剤の展示ほを設置し、イネカメムシの発生活動と収穫物の被害状況を調査しました。その結果、箱施用剤を使用したほ場ではイネカメムシの加害が抑制され、大きな被害は確認されませんでした。

また、捕獲したイネカメムシを農家と一緒に確認することで、発生していることの意識付けを図りました。更に、展示ほの本田防除の時期を確認し、適期（出穂期と出穂期後 15 日）を理解してもらったことで、効果的な防除につながりました。この結果、展示ほを設置した農家では早生品種が 10a 当たり 90kg の増収となりました。

(2) 次年作でのイネカメムシの発生を抑制する対策の検討と情報提供

二番穂（稲刈り後に再生する穂）でのイネカメムシの増殖（写真 1）が懸念されていたため、二番穂でのイネカメムシの生態を調査しました。

二番穂に発生したイネカメムシの成虫と幼虫を農家に直接見せ、二番穂に発生した幼虫は成虫になることを伝え、二番穂での増殖を意識付けたところ、早期の秋耕につながりました。

また、秋耕したほ場としていないほ場を設置し、イネカメムシの密度と雑草の発生状況を個別指導で農家へ伝えることで、秋耕への意識付けを図りました。



写真 1 二番穂で発生したイネカメムシ

（３）千葉地域全体で取り組む気候変動に対応した水稻栽培

イネカメムシの写真、発生状況の推移、有効な殺虫剤の紹介をして、個別指導で農家へ意識付けを進めた結果、適期の防除につながり、収量と品質を維持できました。

千葉県農業者総合支援センター（以下、支援センター）と共に、展示ほで捕獲したイネカメムシの実物と防除適期を確認し、防除について共通認識を持ちました。その結果、農家から支援センターに問合せがあった際も、適切な情報提供ができ、より多くの農家で適期防除ができました。



写真２ 千葉地域水稻栽培講習会

千葉地域の他の市の農家でもイネカメムシの被害があったことを受け、今年度の調査で得られた情報を広く地域の農家へ提供し、経営改善に役立ててもらうために、JA と協力して千葉地域水稻栽培講習会を令和 8 年 1 月 9 日に開催しました（写真 2）。JA から防除に役立つ資材の情報も併せて紹介し、対策に直接つながるようにしました。

講習会には千葉市内の大規模水稻農家 7 戸をはじめ、61 名の農家が出席しました。「イネカメムシの防除時期は通常よりも早いことがわかった」、「イネカメムシの対策として早期の秋耕に取り組みたい」という感想があり、イネカメムシの防除に対する意識と理解が高まったことが伺えました。

3 今後の課題

活動の結果、千葉市内の大規模水稻農家 5 戸のうち 4 戸でイネカメムシの発生に対応した適期の防除ができ、そのうち 3 戸で収量が増加しました。

しかし、イネカメムシの被害の発生には地域や時期に偏りがあることが分かりました。農家がより効率的に薬剤を散布できるような予察方法を検討します。また、継続して箱施用剤の展示ほを設置する予定です。これらの結果は次年度の栽培講習会で情報提供します。

気候変動で病害虫の発生が増加する傾向の中でも水稻農家が安定して栽培できるよう、今後も経営改善の支援を継続します。

- 4 担当者 千葉・習志野グループ
市原グループ
八千代グループ

5 協力機関

JA 千葉みらい、JA 八千代市、JA 市原市、千葉県農業者総合支援センター